

一般廃棄物処理基本計画改定検討委員会（第2回）

会議要旨

1 開催日時 平成26年1月15日（水）13:00～14:25

2 開催場所 東京区政会館14階 入札室

3 出席委員 委員10名

4 会議内容 (1) 報告事項

平成25年度第2回区民との意見交換会について：資料1

(2) 議題

①ごみ量予測について：資料2

②施設整備計画について：資料3 - (1)・(2)

5 会議経過の概略

■ 資料2の説明について

(委員) ごみ排出原単位等実態調査について教えてほしい。

(事務局) 清掃一組で毎年行っている調査で、可燃ごみ、不燃ごみ、資源を1週間程毎日回収して、家庭ごみでは区民一人当たりが1日に排出するごみ量をごみ排出原単位として、報告書にまとめている。

(委員) 計画期間中のごみ排出原単位は、どのように推移するのか。

(事務局) 資料2の3ページに記載してあるが、ごみ排出原単位等実態調査の傾向から、単身世帯のごみ排出原単位は平成24年度推定値と同値で推移するとし、一般世帯のごみ排出原単位は平成24年度推定値と比較して、平成29年度までは減少して、平成30年度以降は同値で推移とした。

(委員) 資料2の2ページの図-2で、現状推移ごみ量が平成29年度から平成30年度で増える理由は何か。

(事務局) 人口が平成32年度でピークになるからだ。

(委員) 人口がピークになる平成32年度で、改定計画ごみ量は減っているが、これはどういうことか。

(事務局) 人口増はあるが、家庭ごみのごみ排出原単位は減少していくと見込んだことと、また、資源化量は増えていくと見込んだことで、改定計画ごみ量の予測値が減少

した。

(委員) 昨年度、清掃一組が実施した光が丘工場建替計画の説明会で、他都市ではごみ量の推移が底を打っているという説明があったが、ごみ量は減る一方でなくなったのではないか。

(事務局) 近隣市と同様に、23区も持込ごみ量は増加しているので、事業系ごみは十分注意して見ていかなければいけない。

(事務局) 事業系ごみのごみ量予測の手法についてだが、従来の考え方では、都内総生産と事業系ごみ量の傾向は連動するとしていたが、平成15、16年頃から逆転の現象が出てきた。これは、産業構造の変化に伴う資源生産性の向上効果によるものと分析した。今回のごみ量予測では、事業系ごみ発生量の算出に資源生産性を盛り込み、発生抑制効果を見込んで推計している。

(委員) ごみ量の予測結果を記載した方がいいのではないか。

(事務局) 結論は、資料2の2ページ「2 ごみ量の予測結果」に記載してある。

(委員) 人口が増える中でごみ量が減るということに特異な感じを持つが、これは減量を努力するからということなのか。

(事務局) 家庭ごみのごみ量は、ごみ排出原単位調査の傾向から少し減少すると予測した。事業系ごみのごみ量は、資源生産性が上がり、ごみ発生量が抑制されるであろうと見込んだ。その結果から、ごみ量が減少すると予測した。

(委員) 区民からすると、ごみの減量を努力しているにも関わらず、廃棄物処理手数料等が上がってしまうことに疑問を持つと思う。ごみ焼却費の66%を占めている固定経費を減らすためには、工場1つ停止する位のごみ量を減らすことが必要であるということを、区民に伝わるように記載した方がいいのではないか。

(委員長) 施設整備計画に関する話になっているが、ごみ量予測の結論は、もっと分かりやすく記載するということがいいか。

(事務局) 結論は、資料2の2ページに記載してあるので、清掃一組の処理すべきごみ量と記載するよう検討したい。

(委員) 了解した。

(委員長) 四角で囲む等して、目立つように分かりやすく記載するように。

(委員) オリンピックの影響は加味しているのか。

(事務局) 現在、見込めるような数字が出ていないので、オリンピックの影響は加味できない。ただし、GDP や都内総生産は2%増としている。平成32年度に向けて大きく一廃計画に影響があれば見直す、大きな影響でなければ実施計画で対応することになると考える。

(委員) 事業系ごみの説明で、総生産が上がってもごみ量が減少すると言っていた現象は、他の大都市でも同様なのか。

(事務局) 抑制効果を加味した資料は見たことがないが、大都市でも同じような傾向であると思う。都市によっては、ごみ量実績のトレンドから予測している場合もある。清掃一組では、平成17年に区長会で了承されたごみ量予測の手法を踏襲しているが、先程説明したように、今回は、事業系ごみ発生量の算出方法に新たな考え方を加えている。

(委員長) ごみ量については、了承していただいたということでもいいか。

(委員全員) 了承した。

■ 資料3 - (1) (本編) の説明について

(事務局) これまで開催したワーキンググループでの主だった質問等を紹介する。まず1つ目は、整備対象施設の現況で、一部の工場が処理能力を下げている原因は、廃プラスチックの量によるものなのかという質問で、そういうことも原因としてあるが、工場によって設計能力の違いもあると説明した。2つ目は、焼却能力や形態は、現状のままで建替えを計画したのかという質問で、現時点では、現状の規模で施設整備計画案を作成していると説明した。3つ目は、施設整備スケジュールの評価項目にある焼却能力のアンバランス解消への配慮について、清掃一組の考え方をしっかり書き込んでほしいという意見に対しては、検討を深めていきたいと回答した。4つ目は、計画期間が終了する平成41年度以降、焼却能力が相当厳しくなる場合は、ごみ減量の必要性を記載しなければならないのではないか、という意見に対しては、議論をしていきたいと回答した。施設整備スケジュールは、2月の検討委員会で出す予定だ。

(委員長) 資料3については、この後読み込んでもらい、2月の検討委員会で意見、質問をいただくということにするが、特に質問はあるか。

(委員) 資料 3 - (1) 8 ページの表-5「複数案の設定」の延命化施設数 2 の案で、延命化は有明工場ではなく、港工場ではないのか。

(事務局) 資料 3 - (1) 8 ページの②に記載しているが、有明工場については、延命化効果が十分あることに加え、管路収集と大規模な熱供給を行っているので、優先的に延命化するとした。有明工場の管路は、東京都の街づくり施策に基づいた施設なので、今後については、関係者と十分調整していかなければならない。

(委員) 了解した。

(委員) 埋立処分場における埋立量削減については、いずれ提案していくが、本改定計画と整合性や関連性を持たせていきたい。

(委員長) 次回の開催日は、各区の議会開催と関係があるので、委員個別にスケジュールを確認して決めたい。

(委員全員) 了解した。